



## A Challenging Job

### 明日へ未来へつながる農業⑩

4月下旬からゴールデンウィークにかけて、「松尾れんげの会」メンバーの田んぼでレンゲの花が満開を迎えます。

昔は、当たり前のように行われていたレンゲ農法にあらためて着目し、飯田市松尾の農家が米作りにレンゲ農法を取り入れて10年がたちます。同会会長の今村勝則さんは「飯田の野菜の台所」と呼ばれた松尾新井地区で、江戸時代から代々続く農家。「祖父は、飯田のまちへ引き売りに行っていたそうです。戦後は、レンゲの田んぼばかりだった。レンゲを刈り取って干して家畜に与えていました」

レンゲの種まきは稲刈りの後。はざ掛け作業の時に種をまけば、作業で田んぼを動き回る人に踏まれて、種が土中に埋め込まれ、土をかぶせる必要はありません。2月には芽を出し、春に花を楽しんだ後、田んぼにそのまますき込みます。

レンゲが空気中から吸いこんでため込んだ窒素分が田んぼの肥料になります。ただし、土壌の窒素分が多くなると、稲が倒れるという弊害が起こります。同会の田んぼでも、当初は稲が倒れ、従来の農法に比べると収量が少なかったそうです。



## 誇りをもって続けていける環境にやさしい米作り

松尾れんげの会

### 新品種「天竜乙女」は生まれも育ちも消費も南信州

1969年から栽培されてきた「秋晴」の後継品種として誕生した「天竜乙女」は、高森町の南信農業試験場で育成した南信州生まれのお米です。2010年に品種登録され、11年には、飯田下伊那の水田2100haのうち400haで栽培されています。



「天竜乙女」は、コシヒカリに比べて出穂や収穫が半月ほど遅い晩生種。茎が太い上に短く、倒れにくいのが特徴です。おもに南信州で栽培されている県の認定品種で、レンゲ農法にも適しています。収穫したお米は、地元スーパー、農産物直売所で販売。コシヒカリよりもあっさりとした味わいです。学校給食でも使われ、地元でほぼ100%消費されています。

### エコファーマー、飯田下伊那に333人

エコファーマーとは、1999年に施行された「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の使用の低減を一体的に行う農業生産を計画し、知事の認定を受けた農業者をいいます。飯田下伊那では、2011年度末で、米、果樹、野菜、お茶などを生産する333人がエコファーマーの認定を受けています。

記事に関する問い合わせ ● 飯田市農業振興センター ☎0265・21・3217

「自分で誇りを持っておるんじやないかなあと思います」。今年同会の米を「れんげ米」として販売することを検討中です。

昨年は、市主催のイベントで、今村さん指導のもと、親子がレンゲ農法による米作りを体験しました。今年も、飯田市松尾小学校5年生が、今村さんから同会メンバーを講師にレンゲ農法に挑戦します。

「松尾れんげの会」メンバーの田んぼでレンゲの花が満開を迎えます。

昔は、当たり前のように行われていたレンゲ農法にあらためて着目し、飯田市松尾の農家が米作りにレンゲ農法を取り入れて10年がたちます。同会会長の今村勝則さんは「飯田の野菜の台所」と呼ばれた松尾新井地区で、江戸時代から代々続く農家。「祖父は、飯田のまちへ引き売りに行っていたそうです。戦後は、レンゲの田んぼばかりだった。レンゲを刈り取って干して家畜に与えていました」

窒素分は化学肥料に頼らずにすみ、環境にやさしい米作りができるレンゲ農法。作った米を「安心して自信を持って薦められる、自分も安心して食べられる」と今村さんは話します。同会は、今年、有志がエコファーマーの申請も行っていきます。先立って土壌診断をしたところ、リン酸の値も高いことが判明。化学肥料の使用をさらに減らせる可能性が出てきました。分析を元に、栽培講習会を開き研究を重ねています。こうした取り組みを続けていくことに「自分たちも誇りを持っておるんじやないかなあと思います」。今年同会の米を「れんげ米」として販売することを検討中です。

そこで、10アールに2キロまいた種を1キロに減らして、横に広がってレンゲが成長するように工夫。米の品種も茎が太くて倒れにくい「天竜乙女」を栽培するなどし、同会のレンゲ農法の田んぼ4.5畝で米27トンを収穫しています。

### 「れんげ米」の販売も



レンゲ農法での米作りに取り組む飯田市松尾小学校5年生。昨年の秋に田んぼにレンゲの種をまきました



イチゴの栽培でもエコファーマーの認定を受けている今村勝則会長

レンゲの咲く今村さんの田んぼでは、近隣の子どもたちが、花を摘んだり、レンゲに埋もれながらごろごろと転がったり、自由に遊ぶ姿が見られます。「昔からレンゲの田んぼには子どもたちは自由に入っている、大人はそれを見守っている、そんなふうです」と笑う今村さん。「桜が終わって、レンゲの風景が広がると癒やされます」。同地区にも宅地が増えましたが、今また昔懐かしい風景を取り戻しています。